

◆実践問題1◆

- 1回目
- 2回目
- 3回目
- 4回目
- 5回目

これも今は昔、ある人のもとに生女房のありけ

るが、人に紙こひて、そこなりける若き僧に、「仮

名曆書きてたべ」と言ひければ僧、「やすきこと」

と言ひて、書きたりけり。初めつかたはうるはし

く、神仏によし、かんにち、くゑにちなど書きたり

けるが、やうやう末ざまになりて、ある日は、物食

はぬ日など書き、また、これぞあればよく食ふ日

など書きたり。

この女房やうがる曆かなとは思へども、いと

かうほどには思ひよらず、さることにこそ思ひ

て、そのままにたがへず。またある日は、はこすべ

からずと書きたれば、いかにとは思へども、さこ

そあらめとて、念じてすぐすほどに、ながくゑに

ちのやうに、はこすべからずはこすべからずと、

続け書きたれば、二日三日までは念じゐたるほど

に、おほかた堪ふべきやうもなければ、左右の手

にて尻をかかへて、「いかにせんいかにせん」と、

よぢりすぢりするほどに、物も覚えずしてありけ

るとか。